

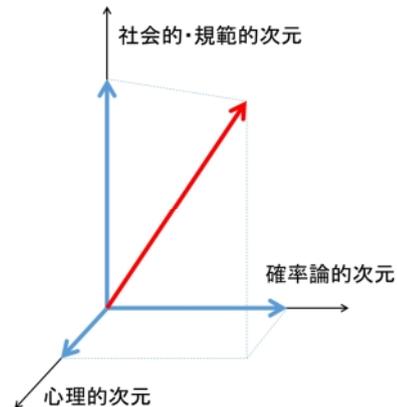
2014年3月7日

## 今後のリスクコミュニケーションの課題

平川秀幸 (大阪大学)

### 1. 脱「切り身」のリスクコミュニケーション

- 「リスクコミュニケーション」の問題の多くは「リスクコミュニケーションの問題」ではない。リスク管理など施策の内容やその決め方に対する不満、それに伴う不信も大きい。
- リスク管理との一体性、いいかえれば「応答性」「相互作用性」が必要。その用意がないなら、いっそコミュニケーションしないほうがいいともいえる。
- リスクの規範的問題への対応：
  - リスク認知 = 確率論的次元 + 心理的次元 + 社会的・規範的次元 (公平性、自己決定、責任、信頼)
- 人文・社会科学系の関与・参画の促進



### 2. イノベーションの文脈との接続・融合

- Communication + Regulation + Innovation
- 「責任ある研究・イノベーション (Responsible Research & Innovation)」に向けて

### 3. エビデンスを求める文化・エコシステムの醸成

- 知識の普及 <<< 探求方法の普及・支援
- Ask for Evidence (英国 Sense about Science)
- NPO 等の活動助成

### 4. コミュニケーション活動の事業化

- 助成金依存からの脱却
- 人材・キャリア開拓のためにも
- まずは行政が需要を掘り起こし、資金の循環を
- 媒介者の規範の必要性